

米国 太平洋岸北西部のブルーベリーは収穫のピーク

FreshPlaza 2023年7月13日

米国内で最大及び2番目に大きなブルーベリー栽培州であるワシントン州とオレゴン州では、収穫の最盛期を迎えている。太平洋岸北西部とも呼ばれるこの地域は、傑出した収穫の年となっている。ツインリバーベリーズ社のベン・エスコー氏は、「晩春の天候が大変良好で、初夏にかけて穏やかであった。極端な暑さや寒さの問題がなかったため、優れた風味の高品質な果実となった」と言う。(以下「」は同氏の発言)

収穫は6月20日にワシントン州東部で始まり、オレゴン州でもほぼ同時に始まった。「収穫の開始が遅かった昨シーズンとは異なり、今年にはほぼ予定どおりに始まった。」ブルーベリーの収穫は夏の真っ只中にピークに達するが、これまでのところ暑い天候は収穫に影響を与えていない。「気温が華氏85度(29℃)を超えると収穫を停止する必要があるが、今年はそのような状況になっていない。気温が高すぎると、果実が過熟になる前に収穫することが難しくなる。」



果実の品質

ほぼ完璧な生育条件の結果、今年は生鮮市場に投入される果実の量が多く、特に有機栽培品が多くなっている。「今年の果実の品質は素晴らしく、食味はこれまで見た中で最高の部類である。過去数年間、悪天候が作柄に大きな影響を与え、品質の高い果実が多くなかった。しかし、今年は量の多さが市場に圧力をかけており、その結果、近年に比べて価格が低くなっている。」今年の市場に影響を与えているもう一つの要因は、カリフォルニア州の収穫開始が遅れ、ワシントン州とオレゴン州で収穫が始まった時点でカリフォルニア州産がまだ市場に出ていたことである。

冷凍品部門

「太平洋岸北西部の果実の出来は優れているが、果実の一定の割合は常に加工に使われる。」ただし、この部門では今年は収益性が良くない。「冷凍ブルーベリーは、昨年産の在庫で一杯のため、価格が非常に低くなっている。昨年冷凍市場に投入された多くの果実はまだ貯蔵されており、その結果、加工品市場は難しくなっている。加工品の収益がコストをカバーするのに十分でないため、生鮮品として出荷される量が多くなっている。」

今年の大量の供給を踏まえ、ブルーベリーの需要はどうか? 「太平洋岸北西部のブルーベリーは出荷の最盛期に入っているが、供給状況を考えると、ブルーベリーに対する健全な需要がある。」供給は年間を通じて見ればより安定してくるので、同氏は引き合いが強まることを予想している。「今後数週間で、主要品種のデュークとドライパーが収穫の終わりに近づいてくるため、供給は先細りになると予想される。それらは晩生の品種に置き換えられるが、そのうちの一部の果実は被害を受けている。「全体として、今後数週間で供給は逼迫するだろう。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ